



2025年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2025年2月7日

上場会社名 持田製薬株式会社

上場取引所 東

コード番号 4534 URL <https://www.mochida.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 持田 直幸

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長

(氏名) 宮本 憲一

TEL 03-3358-7211

配当支払開始予定日

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第3四半期の連結業績(2024年4月1日～2024年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	80,731	3.2	7,243	25.1	7,640	26.1	5,605	26.1
2024年3月期第3四半期	78,218	3.9	5,791	44.1	6,059	43.0	4,444	45.0

(注) 包括利益 2025年3月期第3四半期 5,186百万円 (20.7%) 2024年3月期第3四半期 6,536百万円 (7.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第3四半期	158.11	
2024年3月期第3四半期	123.48	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第3四半期	166,050	130,316	78.5
2024年3月期	158,800	127,967	80.6

(参考) 自己資本 2025年3月期第3四半期 130,316百万円 2024年3月期 127,967百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2024年3月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期		40.00		40.00	80.00
2025年3月期(予想)		40.00		40.00	80.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年3月期の連結業績予想(2024年4月1日～2025年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	106,000	3.0	7,500	29.3	7,700	27.5	5,600	23.1	157.96

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無

新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P. 8'2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2025年3月期3Q	37,470,000 株	2024年3月期	37,470,000 株
------------	--------------	----------	--------------

期末自己株式数

2025年3月期3Q	2,018,945 株	2024年3月期	2,018,491 株
------------	-------------	----------	-------------

期中平均株式数(四半期累計)

2025年3月期3Q	35,451,174 株	2024年3月期3Q	35,993,295 株
------------	--------------	------------	--------------

添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想につきましては、本資料発表時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は、様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
3. 補足情報	9
(1) 主要製品の売上高	9
(2) 医薬品等開発状況	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

医薬品業界は、医療費抑制策が継続的に推し進められるなか毎年薬価改定が実施されるなど、引き続き厳しい環境下にあります。

当社グループ(当社及び連結子会社、以下同じ)は、医療・健康ニーズに応え、グローバルにも存在価値を認められる特色ある生命・健康関連企業グループとして成長するために、研究・開発から製造・販売までのグループ総合力を結集し、持続的成長に向けて選択と集中を進め、更なる環境変化に対応すべく収益構造の再構築を進めております。当期を含む22-24中期経営計画期間中は「新薬を中心とした重点領域における収益の最大化」「将来の競争力に結びつく事業活動への投資」「イノベーション創出と生産性向上に向けた企業体制の強化」を課題として重点的に取り組んでおります。

当第3四半期連結累計期間における医薬品関連事業は、重点領域の「循環器、産婦人科、精神科、消化器」にリソースを集中し、主力製品を中心とした情報提供活動を積極的に展開いたしました。また、ヘルスケア事業は、皮膚科医・産婦人科医や看護師等の高い支持を基盤としたマーケティングの推進に努め、市場開拓を図ってまいりました。

当第3四半期連結累計期間の売上高は80,731百万円で前年同期比3.2%の増収となりました。

これを事業別に見ますと、医薬品関連事業は薬価改定及び長期収載品の選定療養の影響を受けたものの、売上高は75,229百万円で前期比2.8%の増収となりました。新薬の売上高は、潰瘍性大腸炎治療剤「リアルダ」、慢性便秘症治療剤「グーフイス」「モビコール」、痛風・高尿酸血症治療剤「ユリス」、及び肺動脈性肺高血圧症・間質性肺疾患に伴う肺高血圧症治療剤「トレプロスト」が伸長し、前年同期を上回りました。2023年6月に販売を開始した潰瘍性大腸炎治療剤「オンボー」は伸長しました。2023年9月に販売を開始した潰瘍性大腸炎治療剤「コレチメント」も寄与しました。長期収載品の売上高は前年同期を下回りました。後発品事業の売上高は前年同期を下回りました。ロイヤリティ収入は前期に比べて増加しました。

ヘルスケア事業の売上高は5,501百万円で前年同期比9.3%の増収となりました。抗真菌成分配合シャンプー・石鹸をはじめとする「コラージュフルフルシリーズ」、及び基礎化粧品「コラージュリペアシリーズ」の売上高が伸長しました。

次に当第3四半期連結累計期間の利益面につきましては、円安による原薬・製剤の輸入価格の上昇を主な要因として売上原価が増加しましたが、医薬品関連事業の売上高増加に伴い売上総利益が増加したことにより、営業利益は7,243百万円で前年同期比25.1%の増益となりました。経常利益は7,640百万円で前年同期比26.1%の増益、親会社株主に帰属する四半期純利益は5,605百万円で前年同期比26.1%の増益となりました。

研究開発の状況につきましては、研究面では、オープンイノベーションの推進、及び外部リソースを活用した創薬により細胞・核酸・遺伝子などの新たなモダリティを取り込み、創薬パイプラインの充実を図っております。再生医療等製品の分野においては、間葉系幹細胞を用いたプロジェクトに優先的に取り組んでおり、ヒト歯髄幹細胞SHED、高純度間葉系幹細胞REC、臍帯由来細胞「HLC-001」による治療法の開発を進めております。核酸医薬については、高度な専門性を持つ人財や、創薬技術の獲得を積極的に進め、競争優位性のある創薬研究を推進しております。また、当社が創製し、千寿製薬株式会社がドライアイ治療薬として開発を進めているTRPV1拮抗薬については、同社が日本において製造販売承認申請を2025年1月に行いました。

臨床開発面では、「リアルダ」については、小児適応の用法・用量追加の承認申請中です。「ユリス」の小児適応、及び関節リウマチの治療剤であるトシリズマブのバイオ後続品「RGB-19」は、臨床第Ⅲ相段階にあります。月経困難症治療剤「MD-352」、及び米国ユナイテッド・セラピューティクス社から導入した肺高血圧症治療剤「MD-712」は、臨床第Ⅱ/Ⅲ相段階にあります。また、中国において住友製薬(蘇州)と提携して開発を進めている高純度EPA製剤「MND-21」は承認申請中です。

なお、2024年12月に韓国のKuhnil Pharm. Co., Ltd.と韓国における「エパデール」の販売に関する契約を締結しました。

次世代の柱の一つと位置付けるバイオマテリアル事業において、軟骨修復材「dMD-001」は製造販売承認申請中です。海綿体神経損傷治療材「dMD-002」は検証的治験を開始しました。また、癒着防止材「dMD-003」は検証的治験段階にあります。

当第3四半期連結累計期間の研究開発費は8,749百万円であります。

(2) 財政状態に関する説明

当社グループの当第3四半期連結会計期間末の総資産は、166,050百万円となり、前連結会計年度末比で7,249百万円増加いたしました。

資産の増加は、主に有価証券が減少しましたが、現金及び預金や原材料及び貯蔵品が増加したためです。負債の増加は、主に賞与引当金が減少しましたが、支払手形及び買掛金やその他に含まれる未払消費税等が増加したためです。純資産の増加は、主に配当金の支払いによる利益剰余金の減少がありましたが、親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金が増加したためです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間はほぼ計画に沿った業績で推移しているため、2024年5月13日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	33,290	45,583
売掛金	34,838	33,917
有価証券	13,499	7,998
商品及び製品	18,535	19,789
仕掛品	1,428	2,606
原材料及び貯蔵品	10,315	11,712
その他	4,753	3,014
流動資産合計	116,662	124,622
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,823	6,605
機械装置及び運搬具（純額）	1,667	1,826
土地	5,993	5,993
その他（純額）	1,390	1,478
有形固定資産合計	15,874	15,903
無形固定資産	721	787
投資その他の資産		
投資有価証券	16,116	15,506
繰延税金資産	2,372	2,583
その他	7,052	6,646
投資その他の資産合計	25,541	24,736
固定資産合計	42,138	41,427
資産合計	158,800	166,050

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,975	14,280
電子記録債務	1,207	1,484
未払法人税等	593	1,558
賞与引当金	2,140	1,254
その他の引当金	163	144
その他	10,992	12,239
流動負債合計	26,073	30,962
固定負債		
退職給付に係る負債	3,908	3,930
その他	851	841
固定負債合計	4,759	4,771
負債合計	30,833	35,733
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,229	7,229
資本剰余金	1,871	1,871
利益剰余金	117,022	119,791
自己株式	△7,021	△7,022
株主資本合計	119,102	121,869
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,585	8,221
退職給付に係る調整累計額	279	224
その他の包括利益累計額合計	8,864	8,446
純資産合計	127,967	130,316
負債純資産合計	158,800	166,050

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年 4月 1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年 4月 1日 至 2024年12月31日)
売上高	78,218	80,731
売上原価	37,875	39,282
売上総利益	40,343	41,448
販売費及び一般管理費	34,551	34,205
営業利益	5,791	7,243
営業外収益		
受取利息	1	9
受取配当金	363	391
その他	106	98
営業外収益合計	471	500
営業外費用		
支払利息	1	2
持分法による投資損失	162	86
支払手数料	33	11
その他	5	2
営業外費用合計	203	102
経常利益	6,059	7,640
特別利益		
固定資産売却益	—	2
受取和解金	13	—
投資有価証券売却益	15	—
特別利益合計	28	2
特別損失		
固定資産除売却損	31	13
固定資産撤去費用	12	—
特別損失合計	44	13
税金等調整前四半期純利益	6,043	7,629
法人税等	1,599	2,023
四半期純利益	4,444	5,605
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,444	5,605

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年 4月 1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年 4月 1日 至 2024年12月31日)
四半期純利益	4,444	5,605
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,126	△363
退職給付に係る調整額	△34	△55
その他の包括利益合計	2,092	△418
四半期包括利益	6,536	5,186
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,536	5,186

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

当社グループの報告セグメントは、医薬品関連事業のみであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年 4月 1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年 4月 1日 至 2024年12月31日)
減価償却費	2,058百万円	2,167百万円

3. 補足情報

(1) 主要製品の売上高

主要製品の売上高

(2025年3月期 第3四半期実績)

(単位：億円)

製 品 名	前 期		当 期		対前年 同期 増減率
	2024年3月期		2025年3月期		
	第3四半期 実績	年間 実績	第3四半期 実績	年間 見込	
潰瘍性大腸炎治療剤 リアルダ	110	145	116	152	+ 5%
慢性便秘症治療剤 グーフィス	59	77	64	86	+ 9%
慢性便秘症治療剤 モビコール	45	59	50	66	+ 12%
高脂血症・閉塞性動脈硬化症治療剤 エパデール	58	74	40	50	△ 31%
痛風・高尿酸血症治療剤 ユリス	25	33	34	47	+ 35%
肺動脈性肺高血圧症・ 間質性肺疾患に伴う肺高血圧症治療剤 トレプロスト	17	23	32	40	+ 81%
抗うつ剤 レクサプロ	41	52	22	26	△ 47%
持続性Ca拮抗降圧剤 アテレック	18	23	12	16	△ 31%
血液凝固阻止剤 ヘパリンNa	10	13	10	15	+ 4%
慢性疼痛・抜歯後疼痛治療剤 トラムセット	18	22	12	14	△ 33%
子宮内膜症・子宮腺筋症・月経困難症治療剤 ディナゲスト	9	11	6	7	△ 32%
潰瘍性大腸炎治療剤 コレチメント	1	2	3	5	+ 208%
後発品	237	326	234	309	△ 1%
(内、子宮内膜症・子宮腺筋症・月経困難症治療剤 ジェノゲスト)	69	92	79	103	+ 14%
スキンケア製品	50	64	55	70	+ 9%

- ・アテレックは、アテディオを含む
- ・コレチメントは、2023年9月より販売を開始

(2)医薬品等開発状況

医薬品等開発状況

【医薬品】

開発コード 〈一般名〉 [製品名]	開発段階	予定適応症	剤型	備考
MD-0901 〈メサラジン〉 [リアルダ]	申請中	潰瘍性大腸炎 (小児適応)	経口剤	武田ファーマシューティカルズU.S.A.社から導入 自社開発
FYU-981 〈ドチヌラド〉 [ユリス]	臨床第Ⅲ相	痛風・高尿酸血症 (小児適応)	経口剤	(株)富士薬品と共同開発
* MD-352 〈ジエノゲスト製剤〉	臨床第Ⅱ/Ⅲ相	月経困難症	経口剤	自社開発
* MD-712 〈トレプロスチニル〉	臨床第Ⅱ/Ⅲ相	肺動脈性肺高血圧症 間質性肺疾患に伴う 肺高血圧症	吸入 粉末剤	ユナイテッド・セラピューティクス社から導入 自社開発
* RGB-19 〈トシリズマブ〉	臨床第Ⅲ相	関節リウマチ	注射剤	バイオ後続品 ゲデオン・リヒター社から導入
MND-21 〈イコサペント酸エチル〉 [エバデール]	申請中	高トリグリセリド血症	経口剤	開発地域:中国 住友製薬(蘇州)と提携・開発

【医療機器】

開発コード又は製品名	開発段階	予定する使用目的 又は効果	備考
dMD-001	申請中	関節軟骨損傷	アルギン酸ゲル 自社開発
* dMD-002	検証的治験	海綿体神経損傷	アルギン酸シート 自社開発
dMD-003	検証的治験	術後の癒着	アルギン酸シート 自社開発

医療機器の臨床試験に関する開発段階を探索的治験と検証的治験に区分しています

* 2025年3月期第2四半期決算短信(2024年11月1日公表)からの変更点